

生物科学学会連合 第 30 回定例会議 議事録

日 時：2024 年 12 月 21 日（土）12:30～14:10

場 所：東京大学農学部 2 号館 1 階 YAMASA Lecture Room 3 番講義室

東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学弥生キャンパス内

出欠状況：

出席（加盟団体）： *印は兼任または重複出席者を示す。

運営委員

東原 和成*（生科連 2023-2024 代表）

後藤由季子（生科連副代表） 宮下 直（生科連副代表）

小林 武彦* 片山 豪* 原田 慶恵

団体代表

土畑 重人（個体群生態学会）

東原 和成*（日本味と匂学会）

曾我 康一（日本宇宙生物科学会）

岩崎 秀雄（日本時間生物学会）

吉田 大和（日本植物形態学会）

平沢 達矢（日本進化学会）

富田 泰輔（日本神経科学学会）

横溝 岳彦（日本生化学会）

片山 豪*（日本生物教育学会）

高橋 倫子（日本生理学会）

當舎 武彦（日本蛋白質科学会）

鎌田真由美（日本バイオインフォマティクス学会）

永田 崇（日本比較生理生化学会）

岡田 由紀（日本分子生物学会）

井手 竜也（日本分類学会連合）

諫田 泰成（日本薬理学会）

田辺 秀之（染色体学会）

菱田 卓（日本遺伝学会）

大野 伸彦（日本解剖学会）

野口 航（日本植物学会）

大谷美沙都（日本植物生理学会）

尾藤 晴彦（日本神経化学会）

安達 登（日本人類学会）

宮下 直*（日本生態学会）

中根 大介（日本生物物理学会）

栗栖 源嗣（日本蛋白質科学会）

喜田 聡*（日本農芸化学会）

丹羽 隆介*（日本発生生物学会）

岡部 聡（日本微生物生態学会）

藤田 敏彦（日本分類学会連合）

鏑田 武志（日本免疫学会）

（計 29 団体）

欠席（加盟団体）：日本細胞生物学会 日本組織細胞化学会 日本実験動物学会 日本動物学会

（4 団体）

出欠不明（加盟団体）：日本比較内分泌学会

（1 団体）

（加盟合計 34 団体）

出席：喜田 聡*（令和 5・6 年度会計監査委員）

丹羽 隆介*（令和 5・6 年度会計監査委員）

小林 武彦*（日本学術会議基礎生物学委員会委員長）

門脇 孝（日本医学会）

道上 達男（JBO 運営委員長）

岸本 健雄（国立沖縄自然史博物館設立準備委員会）

（敬称略、加盟団体名 50 音順）

事務局 東海 春香

議題・報告：

1. 代表挨拶
東原代表より第 30 回定例会議開催にあたり挨拶が述べられた。
2. 前回議事録確認について
第 30 回定例会議議事録（案）が確認され、原案通り承認された。
3. 令和 7・8 年度代表の選出について
宮下副代表より日本細胞生物学会、日本生化学会、日本分子生物学会からそれぞれ東原和成氏が推薦されており、東原氏以外の被推薦者はなかったと説明がなされた。代表選出議決細則に基づき、選挙を行わずに東原氏が次期代表として選出され、承認された。引き続き、東原氏より挨拶が述べられた。
4. 令和 5 年度会計監査報告について
事務局より資料に基づき、2024 年 7 月に喜田聡、丹羽隆介両会計監査委員による会計監査が行われ、監査の結果、正確妥当なものであるとの監査証明書を受領したとの報告がされた。
5. 令和 7 年度事業計画ならびに予算案について
宮下副代表より資料に基づき、令和 7 年度事業計画について、定例会議（春期はオンライン、秋期は対面）、運営委員会、各種委員会活動、シンポジウム、関連団体との連携、協力、その他本連合が必要と認めた事業を行うと説明がなされた。
続けて、事務局より資料に基づき令和 7 年度予算案について説明がされた。また、令和 7 年度より事務委託費が値上げされるが、事務委託費について運営委員会と中西印刷で契約書回りも含めて確認中のため、予算案の承認は第 31 回で行うことになる」と説明がされた。
予算案の補足として、東原代表より印刷費として支出していた生物科学学会連合案内パンフレットが廃止され、活動費を増やしていると説明がなされた。
6. 関連国際会議について
宮下副代表より資料に基づき今後開催される関連国際会議について説明がなされた。その他、周知したい情報がある場合、事務局宛に連絡して欲しいと依頼がなされた。
7. IBO・JBO（国際生物学オリンピック）について
道上達男国際生物学オリンピック日本委員会運営委員長より、国際生物オリンピックが 2024 年 7 月 7～14 日カザフスタンで開催され、日本から 4 名の選手が参加し、全員銀メダルを獲得したと報告がなされた。また、日本生物学オリンピックの予選が 2024 年 7 月 14 日にオンラインで開催され、予選参加者は約 1,800 名となり、本選は 8 月 25～28 日に熊本大学で開催され日本代表候補を選出したと報告がなされた。財政状況改善のため、やむなく今年度より参加費 2,000 円を徴収し、赤字とならずに済んだが、昨今の寄付・協賛企業の撤退などにより厳しい状況が続いており、新規寄付・協賛企業の獲得に努めていると説明がなされた。国（文部科学省）に対しては、科学オリンピック 7 団体と連携して支援のための要望書を提出したと報告がなされた。

8. 研究費・人材育成委員会について

後藤副代表（委員長）より、以下 3 件の報告がなされた。

(1) 「科研費増額に関する要望書」提出

科研費増額に関する要望書について、要望書の署名の開始前に要望書の内容を審議いただくことが重要であるとし、当初の署名開始から審議期間を延長し、2024 年 6 月にはオンラインで意見交換会を開催、メール審議を踏まえて、2024 年 7 月より署名が開始され、署名開始直後に記者会見を行い、多くのメディアに取り上げられたと説明がなされた。2024 年 9 月 6 日に各学会連合代表とともに盛山文部科学大臣へ要望書を手交し、令和 6 年度当初予算は 155 億の増額にとどまったが、補正予算では若手向けの予算として 52 億の増額となったと報告がなされた。文部科学省からは 10 年間同額だったのが増えていることはかなりの成果で、国のためであるとアピールすることが重要であると意見をいただいたとのこと。また、経団連に働きかけたところ、経団連の提言で科研費の倍増が入っており、経済会の方からも国の成長戦略として大事であると表明され、来年度以降は経団連の提言に入っていることを政治家に向けてアピールすると説明がなされた。今回は科研費増額を主体にしているが、運営費交付金の増額も記者会見等でアピールしているため、経団連に運営費交付金の増額も取り上げられていると説明がなされた。本活動は来年度以降も継続して行うとのこと。

(2) 「博士人材活躍プラン」賛同

文部科学省から「博士人材活躍プラン」という文書が出され、日本神経科学学会より研究者自体がサポートすることが重要であるの意見をいただき、メール審議を行い可決されたため、2024 年 9 月に賛同をホームページにて表明したと報告がなされた。

(3) 「雇い止め問題に関する提言」賛同に向けた検討

日本神経科学学会より「雇い止め問題に関する提言」アンケート依頼が 2024 年 9 月にあり、「今後の対策への提言（案）」が作成された。加盟団体より「今後の対策への提言（案）」についていただいた意見は日本神経科学学会へ共有していると報告がなされた。また、提言は日本学術会議を主体に発出した方が効果的であるため、現在、日本学術会議で内容を練っていると説明がなされた。

9. 生物教育・大学入試問題検討委員会について

片山委員長より、以下 3 件の報告と 1 件の審議がなされた。

(1) 大学入学者選抜試験問題作成上の留意点について

2024 年 6 月 10 日に高等教育機関の入試課関係に「大学入学者選抜試験問題作成上の留意点」をメールまたは郵送で発送したと報告がなされた。

(2) 生科連公開シンポジウムについて

定例会議後、「魅力ある生物教育をどう実現するかー高校生物の新しい方向性についてー」というテーマで公開シンポジウムが開催されると報告がなされた。

(3) 生物教育用語集解説書編集委員会（仮称）の立ち上げについて

昨年、生科連が提案した教育用語集を日本学術会議でいくつか入れ替えの検討をしており、近日中に認証した教育用語集が出される予定で、生物教育用語集の解説集の作成にあたり、生物教育・大学入試問題検討委員会の委員を中心に生物教育用語集解説書編集委員会を立ち上げ、解説集の著者については編集委員を中心に選定、または加盟学協会へ著者の選定を依頼すると説明がなされた。また、解説集は wiki 形式にて web 上で見られる形を検討していると説明がなされた。

- (4) 入試科目理科における生物の選択に関する要望について
二次試験として、医学部で入試科目理科に生物の選択肢がない大学 6 校に対して、生物履修者が受験できるように要望書を郵送すると説明がなされた。要望書の内容について、確認後、要望書の郵送が承認された。
10. 地球生物プロジェクト委員会について
宮下副代表（委員長）より、今年度の活動実績として、2024 年 1 月 20 日開催シンポジウムと第 6 回高校生 生きものの“つぶやき”フォトコンテストの報告がなされた。
11. 第 29 回定例会議後の活動状況について
宮下副代表より資料に基づき委員会活動、メール審議、後援、周知依頼を行ったと説明がなされた。
12. 日本学術会議について
小林基礎生物学委員会委員長より、2024 年 12 月 22 日に日本学術会議の法人化について、緊急総会を行うと説明がなされた。
13. 国立沖縄自然史博物館の設立活動について
岸本健雄国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事より、資料に基づき国立沖縄自然史博物館の設立に向けた取り組みの進捗状況について報告がなされ、引き続き加盟団体への協力依頼がなされた。
14. その他
東原代表より、次期運営委員会委員について、副代表として後藤由季子氏、運営委員として片山豪氏、小林武彦氏に継続いただき、新しい副代表として水島昇氏に就任いただく予定であると説明がなされた。また、今年度で運営委員を退任される宮下直副代表、原田慶恵委員より挨拶が述べられた。

以上